



糟谷 佐紀

専門とする分野：

高齢者・障害者の住宅福祉
のまちづくり
ユニバーサルデザイン

所属：

神戸学院大学
総合リハビリテーション学部
社会リハビリテーション学科

経歴：

1993年 神戸大学 工学部 卒業
1995年 神戸大学大学院 工学研究科 修了
1995～2001年
現代計画研究所 大阪事務所
2001～2005年
兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所
2005年～
現職

団地再編のイメージ

日本の世帯類型は変化している。かつては主流であった「夫婦と子」世帯が減少し、単独世帯の増加が著しい。「夫婦と子」世帯においても、妻が働く共働き世帯が増加している。家庭に専業主婦のいる世帯が減少している。こうした変化により、調理や食事、介護や育児といった、これまで主に専業主婦によって家庭内で行われてきた行為は、家庭外で行われるようになった。

百貨店やスーパーには調理済みの惣菜が並び、弁当や食材を配達するサービスも増えている。介護保険制度により、高齢者の在宅生活を支える訪問介護サービスの利用も可能となった。おむつ交換や、見守りといった夜間の短時間の訪問介護サービスも認められるようになった。しかし、過疎地では、サービス提供時間よりも移動時間に多くを要してしまい、事業として成り立たないという問題が指摘されている。団地のように高齢者が集まっている環境では、こうしたサービスが受けやすい。

団地という人々が「集まって住む」環境は、持家志向の高い日本では、ライフステージの一時期、過渡的な住宅として捉えられることが多い。しかし、「集まって住む」ことによって受けられるサービスについて考えると、少子高齢化がさらに進む日本において、団地は見直されて良い居住形態である。そのためには、子育て世帯、高齢世帯、単独世帯などが、「集まって住む」ことをメリットと考えることができる環境をつくる必要がある。

子育て世帯にとって、子の学齢期には多くの部屋を要するが、幼少期と子どもの独立後にはそれほど必要ない。一方の高齢世帯は世帯の縮小にともない小さな住居を望む。しかし、介護が必要となると介護者のスペースも確保したい。

高齢世帯に関しては、バリアフリー整備のされた住居があると良い。バリアフリー化を容易にできる（原状復帰を求めない）、もしくは整備された住戸への住み替えが容易であるなど。

住宅を所有してしまうと、世帯の変化に応じた住み替えは困難となる。賃貸であることで、世帯の変化に応じて、団地内で金銭負担の少ない住み替えができる、もしくは小さな住居を団地内に一時的に借りることができれば、空き住戸の活用、住宅にかかる費用を抑えることができる。

老朽化した団地でも、躯体の安全が認められれば、低家賃かつ余裕のある広さや豊かな環境を享受できる、若年層には魅力的な住環境である。現在、いくつかの地域で試みられている学生や若年層のシェアハウスがその良い例である。建て替えを前提とした団地であれば、住まい手が自由に手を加えることを認め、若年層の暮らしやすい環境に自ら造り替える楽しみもメリットとすれば良い。



明石舞子団地（兵庫県）における、学生と地元住民との交流の様子
左：夏のイベント参加（うどんづくり）、右：高齢者向け相談コーナー

団地再編に関する知見

■御坊市島団地：和歌山県御坊市市営住宅

第2期計画時に、高齢者優先住戸を8戸決め、2層4列の配置の中央に「だんらん室」と称した集会所を設けた。高齢者の住む住宅とだんらん室はバルコニーでつながっており、高齢者は自宅の玄関、だんらん室の入り口という正式な入り口を通らないでだんらん室に入ることができる。それ以外の世帯は、階段室や廊下を通ってくることになるが、雨の日でも傘を差さずに来られる人が多い。

ここでは、週に一度ボランティアによる「ふれあいサロン」が開催される。ふれあいサロンは、今は全国的に行われている活動である。しかし、護保険制度以前のこの時期においては、先駆的な取り組みであった。ボランティアによる昼食の提供（利用者は2～300円程度支払う）やレクリエーション、保健師によるバイタルチェックなどが行われる。近隣に住む高齢者には声をかけて参加を促す。週に1度のふれあいサロンに来てない場合、自宅に様子を見に行くなどの安否確認も兼ねている。ボランティアも高齢者であるが、ボランティアを行うことで他者とのつながり、役割のあることが生きがいになっているようである。



御坊市島団地：左・だんらん室、中央・ふれあいサロンの様子、右・空中街路

参考文献

- 「公共住宅建て替え」(建築設計資料) 建築資料研究社, 1998.
「60プロジェクトによむ日本の都市づくり」御坊島団地, 朝倉書店, 2011.

2011年1月以降の業績（発表論文・著書など）

■論文など

- 「60プロジェクトによむ日本の都市づくり」御坊島団地, 日本都市計画学会編, 共著, 朝倉書店, pp162-163, 2011年11月.
「ユニバーサルサービス」の発展・普及に向けた人材育成～障害講師派遣のしくみづくり～」第26回リハ工学カンファレンス, CD-ROM 概要集, 2011年8月24-26日.
「規格一まちづくり」日本リハビリテーション工学協会「リハビリテーション・エンジニアリング」Vol.27/No.1『これからの自立支援機器に求めること』, pp22-25, 2012年2月.
「福祉用具や住宅改修がケアプランに与える影響」神戸学院総合リハビリテーション研究, 第7巻, 第2号, 2012年3月.
「公的介護サービスの居住地外給付に関する自治体の運用手法に関する調査」第27回リハ工学カンファレンス, CD-ROM 概要集, 2012年8月23-25日.
「介助・介護を必要とする旅行者の公的サービス利用の可能性に関する基礎的研究」日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会, pp151-152, 2012年8月25-27日.
「東日本大震災における被災者実態と住宅復興(その2) 住宅状況に関する釜石市のケーススタディ」日本建築学会2012年度大会(東海), pp245-248, 2012年9月
「重層的な生活困難を抱えた単身困窮者の住居」関西大学地域再生センター, Re-DANCHI leaflet NO.76, 2012年9月

『関西大学 戦略的研究基盤 団地再編 プロフィールシート』

執筆：糟谷 佐紀

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅“団地”の再編(再生・更新)手法に関する技術開発研究(平成23年度～平成27年度)」によって作成された。

関西大学

先端科学技術推進機構 地域再生センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号
先端科学技術推進機4F 団地再編プロジェクト室

Tel : 06-6368-1111 (内線:6720)

URL : <http://ksdp.jimdo.com/>